令和最初の卒業生諸君へ

学校長　横山　豊

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんが本校にいた間に、日本では様々な出来事がありました。まず天皇陛下が即位され年号が平成から令和に代わったことが最大の変化でした。そして、本庶佑先生や吉野彰先生のノーベル賞受賞や、ラグビーワールドカップにおける日本チームの大活躍など、スポーツに関連した明るいニュースもたくさんありました。その反面、台風19号による大雨のために東日本で90人を越える方々が亡くなられるなど、地球の温暖化が原因と思われる環境の変化・危機を肌で感じさせられる日々でもありました。

さて皆さんは、校門の左横にはめ込んである石版に刻まれた「我ら真心もて教えの任に当らん」という創立者佐々木とよ先生の言葉を、毎日のように見てきたと思います。ところでその石版を左手に見て校門をくぐり校舎に向かって歩いて行くと、立派な黒い巨石の句碑があることは知っていたでしょうか。この句碑は、昭和58年に設置されたもので、当時理事長であられた深井重三郎先生が詠まれた作品が刻まれています。それは雛祭りを題材とした、次のような俳句です。

「なかんずく囃子雛(はやしびいな)の頬(ほほ)丸く(まろく)」

これを現代日本語に訳せば、「雛人形が飾られているが、その中でも特に五人囃子の人形の頬が丸くて可愛らしいなあ」ということになります。深井先生は大変多くの俳句の秀作を発表された方ですが、その中でなぜこの作品を自ら選んでこの句碑に残されたかを考えてみますと、一つの推測をすることができます。女子校だった当時、本校の卒業式は3月3日に行われていましたので、卒業式の日に校門に続くこの道を通って旅立っていく生徒たちのことをお考えになったのではないかと思うのです。子供の健やかな成長と幸せを祈る雛祭りに託して、卒業生たちがこれからも健康でさらなる成長を遂げてくれることを願うお気持ちから、この句を選ばれたのではないかと思います。その思いは、私を含めた現在の職員一同も全く同じです。

さて、今年は日本で開催される2回目のオリンピックである、第32回オリンピック東京大会が開催されます。前回の東京オリンピックは、日本が戦災から立ち直り目覚ましい発展を遂げる中で、本格的な国際社会への復帰を果たした「戦後ニッポン」を世界にアピールするものとなりました。当時は高度成長期の真っただ中であり、夢の超特急と呼ばれた東海道新幹線が走り始め、高速道路も開通しました。それに対して今回のオリンピックは当時より経済的にはずっと発展した時期に行われることになりましたが、最近の世界情勢に目を向けると、至る所に平和の均衡を一気に崩してしまう危うさが感じられます。そのような時だからこそ、近代オリンピックの父と呼ばれているクーベルタン男爵がオリンピズム(オリンピックのあるべき姿)の中で語ったように、世界が文化・国籍などにおいて差別のない、平和でより良いものとなるべく貢献する大会になることを強く祈らないではいられません。

実は、私が本校に就職して、初めて担任したクラスの48名の生徒たちは、前回の東京オリンピックが行われた1964年度に生まれました。そしてその中に、小川聖子・勝子という双子の姉妹がいました。彼女たちは入学後の初めてのホームルーム活動の自己紹介で、自分たちの名前はお父さんが東京オリンピックの「聖火」にちなんでつけてくれたのだという話をしてくれました。聖子の方は「聖火」の聖を取って、「聖子」。勝子は「聖火」の「火」から音をとって、「勝負に勝つ」の意味も込めて「勝子」と名付けられたのだそうです。

ありがたいことに、私はその後3年間彼女たちの担任を務めさせてもらいました。そして3年生の1月を迎えました。あれは始業式の日でした。朝8時頃に小川姉妹のお母さまから突然電話で、「岐阜市民会館のバス停で聖子が激しい頭痛を訴えて倒れ、救急車で搬送された」という内容の連絡が入りました。脳腫瘍でした。その後緊急手術となり、ほぼ8時間に渡り彼女は生死の境をさまよいました。そして幸いなことに手術は成功し、一命を取り留めました。

そして3月3日の卒業式の日を迎えました。彼女は目覚ましく快復しており、出席は難しいと思われていた式典にも参加できました。その後ホームルームに戻り、卒業証書を担任から一人ひとりに手渡す時間となりました。「小川聖子」私が名前を呼ぶと、彼女は「はい」と力強く返事をし、ゆっくりと、でもしっかりとした足取りで教卓までやって来ました。その後しばらくの時間は、生徒たちも私も泣いていましたので、はっきりと思い出すことはできませんが、元気に快復し、にっこりと微笑む聖子さんの顔が目の前にあったことはしっかりと覚えています。この聖子さんと勝子さんの姉妹は、現在二人で仲良く和食の料理店を開き、元気いっぱい変わらぬ笑顔で働いています。

さて卒業生の皆さん、君たち若者は令和の日本を支えていく原動力であり、日本という国の希望です。本校の教育目標は「心豊かで、たくましく、自ら考え行動できる優れたリーダーの育成」でした。ぜひそのような人として、これからの令和の日本を支えていく大きな力となってください。私達職員一同は皆さんの今後の活躍を心から願い、常に応援しています。